

高校ではレベルの高い大会にも出られるようになり、悲しいかな自ずと自分の限界が見えてきた。テニスは高校までと思うようになった。大学では、何か新しいことをしようと思った。

大学に入った。入学式の日、各サークルの勧誘合戦が激しい。そんな中、高校のテニス部の先輩に「昼飯を食べに行かないか」と誘われた。いろいろと大学の話を知りたくて、このことについていった。とある中華料理店に入った。座敷の扉を開けると、そこには総勢50人ほどの体育会軟式庭球部（現ソフトテニス部）の先輩方がお揃いになっていた。そのとき「どうやら先輩にはめられた」と気づいた。時すでに遅かった。私のほかに女の子が一人来ていた。話を聞いてみると、すでに彼女は軟式庭球部に入るつもりでいるらしかった。後でわかったことだが、彼女はとてもすごい選手だった。この時点では、後に私が男子部長、彼女が女子部長になろうとは知る由もなかった。

一方、私は軟式庭球部にだけは入るまいと思っている人間である。悲しいかな次の日には練習に参加している自分がいた。それでもいつやめようかとタイミングをはかっていた。一応入部したのだから、先輩への義理立てはすんだと思っていた。大学生になってはじめての大会に出た。思いがけず勝ってしまった。やめる機会を逸した。

その後、望みもしないのに部長（主将）になってしまった。再び、高校時代と同じように練習日程、内容、選手決定など、すべて自分でやった。高校のとき以上に苦しいこともあった。大会でチームが意気消沈しそうなどときには、チームの士気を鼓舞するために、自ら気迫を全面に出して試合をしたものだった。大学も高校と同じように指導者はいなかったのである。ついでに学生連盟の役員も務めた。他の大学の人たちと大会の組み合わせを作ったり、大会の運営にあたったりもした。

結局、中学、高校、大学とソフトテニス（旧軟式テニス）を続けてしまった。小学校の教員になっても一般の大会に出ていた。選手生活にピリオドを打ったのは、中学校の教員になって、自分がテニス部の指導者になってからである。この間、テニス部（部活動）にどれほどの時間を費やしただろうか。もし、テニスをやっていなかったら、部活動をやっていなかったら、自分の人生は少なからず変わっていたと思う。

長年にわたりソフトテニスを続けてきた中でたくさんの人たちのお世話になった。何せ指導者がいなかったのだから、いろいろな人に教を請うた。たくさんの人たちに支えられてきた。指導者になってからは、少しでもその恩返しをしようと思ってきた。なぜなら、ソフトテニスが私をつくってくれたからである。福島県選抜チームのコーチや監督をするようになって、恩返しも少しはできたかなと思えるようになった。

今までソフトテニス以外にも、いろいろやってきた。好きなものはたくさんあったが、ソフトテニス以外に「これだ」と打ち込めるものはなかった。イタリア、ローマにいる間は、ようやくソフトテニスとの縁が切れた。おかげで、今までの自分を振り返ることができた。

だが、日本へ戻った途端に、何事もなかったようにソフトテニス部の顧問となった。結局、その後も長きにわたり、ソフトテニスに携わっている。今年度からは、ようやくソフトテニスから遠ざかるようになった。今度こそは何か新しいことを始めようかと思っている。自分に何ができるかとても楽しみである。ソフトテニスしかやってこなかった人間である。自分でも、何ができるかわからない。